

観自在

弘長寺寺報

第4号

平成一四年

七月

弘長寺副住職 森田裕光

より

仏教的な祈り

《災難に逢う時節には災難に逢うがよく候 死ぬ時節には死ぬがよく候 是はこれ災難をのがるる妙法にて候 良寛》

皆様方は 神社やお寺にお参りになった時に、どんなお祈りをされるでしょうか。

おそらく、自分や家族が円満無事で、良いことがあり、ケガや病気をせず、長生きして、合格、結婚、安産全て叶い、儲かって、ついでに宝くじも当たりますように。

私がそうでありますように、皆様方も大体こんな感じではないでしょうか。

「苦しい時の神頼み」で、困った時にはそれこそ真剣にお参りし、賽銭の額も上がったりします。

しかし、仏教を学ぶと、この祈り方は仏教的でないとい

うことがすぐにわかります。何故なら、仏教ではこの人間のシャバ（娑婆）世界は苦しい所である、と断言しているからです。

自分の思い通りにならない世界、堪え忍ぶ世界がシャバ世界です。あの人と結婚したい、これ位財産があれば…全く思い通りになりません。

つまり仏教はこう言っています。

この人間の世界は 楽しいこともあるが、苦しみに必ず捕まってしまうのだ。いくら祈っても、思いが叶うこともあるし 叶わぬことも多い。

では叶わぬ時はどうすれば良いのかというと…「あきらめよ」というのです。

それは「絶望して諦める」のではなく、「この世は思い通りにならぬ世界であること」を明らめよ（明らかにせよ）

ということですが。

私たちは、いつか仏に成るため 仏の世界からこのシャバ世界に、「悲しみや苦しみを修行する為に送り出されているのだ」…お経に説かれています。

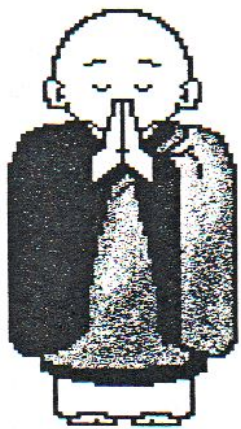
とすると私たちの「全て思いが叶いますように」との祈り方は、決して仏教的ではないですね。

だって仏教は 思い通りにならない事をこそ しっかりと修行せよ、と言っているのですから。

ではより仏教的な祈りとはどうすることでしょうか。

それは「死が迫るほどの苦しみがやって来たときに、絶対にくじけない力を私にお与え下さい。」だと思います。

理論はそうなのですが 難しいですね。



あやまちは誰でもする
つよい人も 弱い人も
えらい人も おろかな人も

あやまちは人間をきめない
あやまちは人間をきめる

あやまちは重さを
自分の肩に背負うか
あやまちからのがれて
次のあやまちをおかすか

あやまちは人生をきめない
あやまちは人生をきめる

ブツシュ・孝子

弥陀の慈悲は廣大無辺

ご先祖お位牌安置の勧め

弘長寺護持会会長

土江嘉久

阿弥陀様は 西方浄土にあつて全ての人々を救われる仏様といわれます。

その慈悲は廣大無辺で、いづれが 誰が どんなに多くのお人がおすがりしてきてもお見落とすことなく、それぞれの身に持つ悩みや迷いを取り去って、幸せにしてくださいます。

苦痛がひどければひどいほど、哀れ慈しむお心はさらに深く、御利益は一人一人に確実に及ぶのであります。

弘長寺の位牌堂はそのようになみ仏様「阿弥陀如来」像を中心とし、まわりを囲むように各檀家の戒名の入ったお位牌や先祖代々のお位牌が安置されておりました。

阿弥陀様とお位牌を同じお堂に安置し、手を合わせ拜むことのできる弘長寺の位牌堂はほんとうにすばらしいと思えます。

過去このお堂建立当時、阿弥陀堂と位牌堂とを別棟にせず合併一棟とされた。ご先祖

の気持ちも伝わってきて、層ありがたさが身に染みてまいります。

今生きて在る私たちが阿弥陀様を拝み、そしてご先祖に感謝し祈るその念(おもい)は必ず、み仏様に通じきつと幸せなお恵みのあることを信じて疑いません。



先般の位牌堂建立計画の中で、予算上、阿弥陀像は現在のままにして、別に位牌堂を建立するとの見解を出しておりました。

しかし、阿弥陀様と位牌を離すべきではない、とのご意見を多数頂戴し、有り難いご指摘であり、将来の位牌堂建立再設計時に、検討を図りたいと思っております。

現在古いお位牌は整理が終了しましたので、次のステップは先祖代々の位牌を揃えて、全檀家と同じスタートラインにつくこと。

ただ、現在提案の位牌は高類であるため、それとは別に材料を若干変えて(外観は同じ)、求めやすい価格の位牌も 設定したいと思えます。

現在仏具店と交渉中であり、近々ご提示できると存じます。

趣旨ご理解の上このみぎりぜひお家のお位牌安置のほど、謹んでお勧め申し上げます。

合掌

お願い

●九月二十九日は道元様七百五十回忌正當の命日です。

▽各ご家庭でお仏壇に手を合わせ拝みましよう。

お寺でも正當の法要を営みますので、どうぞお参り下さい。

午後二時より。

●除夜の鐘をつきませんか

▽テレビでよそのお寺の鐘の音ばかり聞かずに、菩提寺の鐘を自分の手でついでみませんか。

一年間の垢が落ちるような気がしてすっきりしますよ。



お知らせ

●盆棚経について

▽八月十三日〜十五日まで棚経に廻ります。

昨年内ヶ峠の梶谷道夫氏宅まで終了しましたので、今年は五百川秀夫氏宅からでございます。

内ヶ峠、久戸、大森、横見、大野、弘長寺の順で廻れる所まで。朝は七時から開始致します。十四日は初盆のお宅へ伺います。

●墓地、予約受け付けます。

▽門前の寺族(森田久美子)名義の畑を法人に寄付、墓地を造りました。十四区画あり、一区画ヨコ3M×タテ2.33Mのゆつたりとした墓地で、永代使用料四十万円です。

鐘の音・読経を聞きながらのまさにお寺の真ん前の一等地です。既に六区画は予約済み。

ご希望の方はお寺まで。但し、檀家・檀家予定者のみ。

●施食会の法話

▽本年は

邑智郡桜江町 宝福寺住職

森山容光 師

にお願い致しました。以前宍道町仏教会でもお呼びして好評でした。

●坐禅会を開催します

▽九月から毎月第一木曜日の朝六時より一時間坐禅会を開催します。三十分程坐り、般若心経・お茶で解散。申し込みはお寺まで。

大遠忌

大遠忌に参拝して

久戸

坂本研次

このたび、道元禅師様七百五十回忌に大本山永平寺に参拝することの希有に恵まれましたことは、誠にありがたく、幸せなことでありました。

この大遠忌の基本理念を「慕古心」とされ、それはお釈迦さまから道元禅師様に至るまでの間の尊い教えを伝えてこられたお坊様の修行を慕い、自分もその正しい教えに生きようという意味であり、その正しい教えこそ坐禅である、と道元禅師様はお示しになつておられるのであります。

今の貫首、宮崎禅師様は百二歳の高齡ながら、毎日のお勤めを、若い雲水の方々と共に行ぜられておられるのであります。朝は雲水より一時間早く起きて、写経をなさつてから坐禅堂に赴かれるそうです。

永平寺には、いま二百人ぐらゐの雲水さんがいますが、毎日の読経、食事、仕事、夜寝ることもすべて坐禅に通じる事と捉え、生活のすべてに仏道を行じておられます。私たちが、多人数の参拝団の、一切の面倒も、修行僧の方にまかしていただき、お教えもいただきました。

本当に厚く御礼を申し上げます。

私たちは毎日坐禅をしていけるわけではありませんが、宮崎禅師さまは、『毎日、仏壇の前に端坐し、体をまっすぐにし、お線香を立て、自分の鼻筋と釈尊の鼻筋とが揃つて真つすぐになるようにして三分でも五分でも坐る。そして「仏様、ご先祖様」に感謝の気持ち捧げれば、それは慕古心の実践である』と述べておられると聞きました。

今回は、永平寺のほか、総持寺祖院、瑞龍寺、永光寺の三寺院にも参拝し、諸老師から曹洞宗の教えを学ぶことができ、本心に心の洗われる思いがいたしました。

そして新たな気持ちで、「慕古心」の実践を少しでも行じたいと念じています。今回の参拝にあたり、弘長寺様をはじめ、宗務所、各寺院の皆様にお世話になりました。厚くお礼申し上げます。

合掌



大本山永平寺 山門前

梅花講

全国梅花流五十周年記念 奉詠大会に参加して

広い武道館が、紺色の梅花服一色でうめつくされた中、最初に曹洞宗管長、大本山総持寺貫首板橋興宗禅師様の尊いお言葉を頂きました。

次に大本山永平寺貫首宮崎奕保禅師様が車いすにて登壇され、残念ながらお声ははつきりとは聞き取れませんでした。お顔が穏やかで、とても百二歳とは思えないしつかりとしたお姿に拝謁したときは、思わず頭が下がりました。

全国梅花講の皆様、日ごろの御詠歌の練習の成果が発揮され、荘厳なお唱えが武道館一杯に響き渡りました。アトラクションは駒沢大学吹奏楽部の演奏、かつて体験したことのない大迫力に感動を受けました。

大本山総持寺の貫首様は幼稚園児と一緒に再登壇され、園児達と一緒に手をつないで輪になって廻られました。それはまさしく幼稚園の園長さんそのもので、やさしいお顔と慈悲深いお姿に、胸を打たれました。手をとって輪になって廻れば世界中みんなが幸せになれるよと、園児達に教えられているような気が致しました。

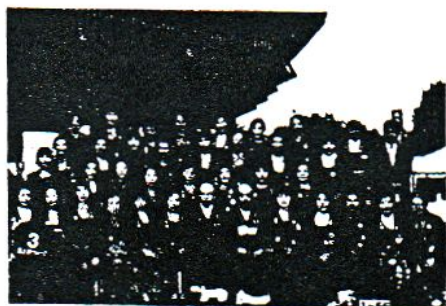
鎌倉大仏、建長寺、いろは坂、日光東照宮、柴又帝釈天、寅さん記念館を観光。

一日目の宿は東京ドームの隣のドームホテル、四十階建ての二十七階に泊まり、カード一枚手渡され、田舎者にはどこをどうして良いやらさっぱり分からず大笑い、二日目は鬼怒川温泉の宿でまたまた大笑い、足の痛いのも忘れて、二泊三日の旅の最後はジェットに乗り、夜空の上で了えました。

梅花講に入講して十五年目を迎えますが、御詠歌の方は和尚様には悪いのですが、なかなか？？です。

でも夜はいつも御詠歌のテープを聴きながら、するといつしか夢の中に誘われてしまいます。本当に楽しかった旅、梅花講に入っていればこそと感謝致しております。

合掌 花組 坂本吉江



日本武道館の前で

仏教豆知識

質問

弘長寺の鎮守様はどなたですか？

答

秋葉三尺坊大権現様です。

位牌堂の隣にある改築を済ませたばかりのお堂に祀っております。

全国的に信者があり、火防（ひぶせ）の神として信仰されています。

昔は弘長寺の秋葉さんは有名で、八月三十一日の大祭には露天が多数出て、芝居があったりして、大変賑わった時期もありました。大変賑わった時期もありました。方々には減ってしまいました。四月には来待地区の消防団が防火祈念供養をされます、こちらの方が賑やかです。

少し詳しく説明致しますと、秋葉権現の尊容は烏天狗、肌は青黒、頭に兜巾（ときん）、右手に剣、左手に綱索（けんさく）、背には羽、後背に迦桜羅（カラ）宝珠の冠の狐の上に乗って空を飛び、平安、鎌倉、室町にかけて修験道行者の理想像としてひろく信仰されました。

大きく分けて越後系と遠州系の秋葉権現があります。長野県善光寺の近くに戸隠山は十一歳で出家、戸隠山の西洞窟で修行されました。山岳を登り、滝に打たれ、五穀を断ち、草根木皮を食し、神通力を得るための修行をされました。さらに信濃川を下り、新潟県栃尾市に信濃の吉野蔵王権現系修験道の霊場の中の貫首坊である三尺坊（一メートル四方のお堂）に入り、衆生済度のため三大誓願を立て、不動明王法を修し、超人的な修行の結果、遂に空中飛行の大神通力を獲得されました。

その三大誓願とは、一、我を信ずるものは失火と延焼の一切の火難をまぬがれる。二、我を信ずれば病苦と一切の苦患を救う。三、我を信ずれば生業と心願と一切の満足を与える、です。

秋葉は山のひきがえるの背にアキハの文字が見えた事から始まると言われています。戸隠村の宝光社の神職、岸本昌義氏は秋葉権現家の子孫と称しておられます。

越後で完成を見た秋葉権現は同じ信濃より天竜川を下り、遠州に伝播しました。今は、大聖方丈様が修行をされた僧堂、静岡県袋井市の可睡斎（徳川家康の朱印寺）が有名ですが、本来は天竜川の上流の山地にある秋葉寺（しゅうようじ）が大元です。明治五年廃物（じ）が焼失し、尊像・法具一切が可睡斎に移されました。秋葉寺は焼失し、その後神社となりました。

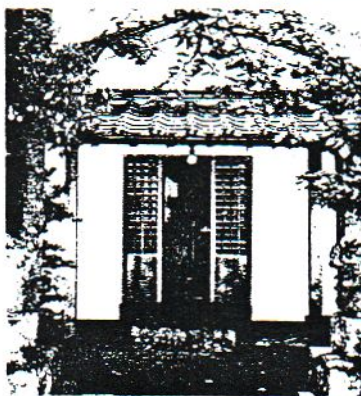
後は古来の根元、遠州は今の根元という、いきな裁判をしたといわれる伝承も面白いですね。

権現とは仏が衆生教化のためわざと神の姿をしていることであり、その本地（本体）は仏であります。秋葉権現の本体は観音様。旧秋葉寺本殿は正面に聖観音、右に十一面観音、左に毘沙門天。越後系の秋葉権現の本拠地は十一面観音となっております。

本地が仏でありますので、私は秋葉権現様や、金比羅権現様には手を叩かず、合掌をお奨めしております。合掌をお奨めしておきます。仏教には手を叩くという所作はないからです。

弘長寺の秋葉堂に棟札が有りますが、墨が薄れて、はつきりと読めません。寛政と寅という字がかすかに読めますから、寛政六年一七九四年（二〇八年前）に勧請されたものと思われま

可睡斎の火防大祭（七十五膳供）は十二月十日より十六日まで続くのですが、弘長寺の大祭が何故八月三十一日なのか、根拠は全くわかりません。



弘長寺 秋葉堂

あとがき

御本山へのお参りは本当に有り難く、良い修行をさせて頂きました。

団参ならではの記念品、道元様の立派な木彫りの御像は、参加された方だけの宝物です。御本山に祠堂殿がございます。ちょうど弘長寺の位牌堂と同じで、全国から無数の先祖代々や戒名位牌が安置されています。お寺の御仏様の膝元で位牌を祀りたい気持ちは全国共通のようです。



永平寺 祠堂殿の一部

団参終了を待っての寺報作りで、予定より少し遅れました。